

宇野港



岡山県土木部港湾課

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6

☎086-226-7484~7487(直通)

URL : <http://www.pref.okayama.lg.jp/>

1. 概況

宇野港は、岡山県の中央部児島半島の南部に位置し、岡山県における主要な外国貿易商業港として整備がなされ、また瀬戸内海への玄関口として発展してきた。昭和63年4月の瀬戸大橋の開通に伴い、長い歴史を持ったJR連絡船が廃止されたものの、フェリー・旅客船等による離島への連絡拠点港湾としての機能は、従来通り存続している。

中国山脈と四国山脈に挟まれた瀬戸内海の中央部に位置し、児島の山なみを背景に、前面には幾多の島々で囲まれた気候温和な天与の良港である。また冬季に西寄りの季節風があるが、港内荷役に支障をきたすこともない。春季には、夜間から早朝にかけて瀬戸内海特有の局地的濃霧が発生することもあるが、ほとんど短時間で消散する。

本港へ入港する船舶は、備讃瀬戸東航路から宇高東航路を北上し、荒神島と直島間を通過する。出港するには、葛島の西側を通過し、宇高西航路南下、備讃瀬戸東航路に入る。

宇野港の歴史はきわめて古く、神宮皇后が新羅征伐の際、本港に上陸仮泊されたことが、史実に残されており、また天正年間には、豊臣秀吉が大坂城築城の際、本港付近の丁場より石材を積出したと伝えられている。慶応年間には、本港の地帯で塩田が開墾され、その事業は明治末までつづけられた。

明治39年に岡山県は、宇野港第一期修築工事に着手し、明治42年に竣工した。これと並行して宇野線の敷設工事が始まり、同鉄道が明治43年に開通されると同時に宇野・高松間の連絡船航路が開かれ、本州と四国を結ぶ連絡港として本格的形態を整えることとなり、かつて塩田の連なる半農半漁の寒村は、みごとな変貌を遂げた。

昭和4年、第二種重要港湾に指定され、ついで翌5年には、岡山県唯一の開港場として指定された。昭和7年、第二期修築工事に着手し、昭和15年に第2突堤が完成した。昭和25年、岡山県が港湾法に基づく港湾管理者となり、重要港湾に指定され、さらに昭和35年には、隣接する日比港を併合し港湾区域を拡張した。

この間、昭和30年には、国鉄の代替施設工事として第1突堤が完成し、埠頭用地には、上屋及び船舶給水施設など一連の機能施設も整った。

その後、宇野地区においては、昭和42年に第3突堤(15,000D/W級バース等)の建設に着手し、昭和49年に完成した。一方、日比地区においては、昭和44年に物資別専門埠

頭(15,000D/W級)の建設に着手し、昭和47年に完成した。

現在、小豆島、直島等への離島フェリーも運航しており、瀬戸大橋完成後も依然として瀬戸内海への玄関口としての港の性格を有している。

しかしながら架橋に伴う宇野港の港勢の変革に対応するため、宇野港再開発計画の一環として、昭和58年から田井地区において農産品、鉱産品、軽工業品、林産品の外貨埠頭(30,000D/W級岸壁2バース、15,000D/W級岸壁1バース、30,000D/W級ドルフィン1バース)内貨埠頭(2,000D/W級岸壁2バース)等の港湾施設の整備及び、背後地域の活性化を目的とした臨海部土地造成が進められ、平成3年度には概成している。

さらに、宇野地区においては、ウォーターフロントの新しい魅力を創出するため、フェリーターミナルの拡充整備、大型旅客船埠頭(水深10m岸壁1バース)、緑地の整備などの再開を進め、平成14年9月にはフェリーターミナルを全面的に供用開始した。また、平成18年7月には大型旅客船埠頭が完成しており、平成16年7月に設立した「宇野港航路誘致推進協議会」を中心としたクルーズ客船の寄港や定期航路の開港に向けたポートセールスを展開しているところである。

物流港として整備している田井地区においては3万トン級貨物船に対応した公共埠頭の整備を行うとともに、平成16年には多種多様な貨物に対し、効率的な荷役ができるよう、タイヤ式ジブクレーンを設置するなど、物流機能の集約を図った。